

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	0198		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子機械工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	指定なし				
担当教員	中平 希				
到達目標					
<p>1. 様々な哲学者の思想に触れることによって、人間とはいかなる存在か、人としていかに生きるべきか、社会とどのように関わるべきかといった諸問題について、これまでの宗教や哲学がどのように考えてきたかを学び、これからの社会生活でものごとを判断するための幅広い視野を身につける。</p> <p>2. 授業に集中し、必要な知識を身につけることができる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況をよく理解し、主要な事項について十分な説明ができ、発展的な問題を作成することができる。	授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況を理解し、主要な事項について説明ができる。	授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況が理解できない。	
評価項目2		主体的な関心を持って授業に取り組み、自らが調べたことを加えて、わかりやすく授業ノートをまとめることができる。	関心を持って授業に取り組み、わかりやすく授業ノートをまとめることができる。	授業に関心を持たない。他人がみて内容を理解できる授業ノートを作成できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ヨーロッパ近代の哲学者を中心として、様々な哲学者の人生を通じて、哲学者の思想が世界を理解したいという当人の欲求の産物であると同時に、当時の社会の動きと密接に結びついていたことを学ぶ。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業は講義形式を中心とする。 試験の際には、それまでの授業の内容をA4用紙1枚にまとめ、提出すること。まとめの工夫をポートフォリオとして成績の評価対象とする。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス：哲学とは何か	哲学と宗教との関係について説明できる。	
		2週	古代ギリシアの哲学者（1）	ソクラテス以前の哲学の概略が説明ができる。	
		3週	古代ギリシアの哲学者（2）	ソクラテスの哲学の概略が説明ができる。	
		4週	古代ギリシアの哲学者（3）	プラトン、アリストテレスの哲学の概略が説明ができる。	
		5週	中世の世界観	中世のキリスト教会の世界観について説明できる。	
		6週	17世紀科学革命	17世紀科学革命が哲学に与えた影響について説明できる。	
		7週	デカルト（1）	大陸合理論について説明できる。	
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
	2ndQ	9週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。	
		10週	デカルト（2）	デカルトが世界をどのように認識していたかを説明できる。	
		11週	デカルト（3）	機械論的世界観とその影響について説明できる。	
		12週	ホッブズ（1）	17世紀イギリス革命の時代背景について説明できる。	
		13週	ホッブズ（2）	「自然状態」「万人の万人に対する戦い」について説明できる。	
		14週	ホッブズ（3）	ホッブズの社会契約論について説明できる。	
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
		16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。	
後期	3rdQ	1週	ロック（1）	ロックの社会契約論と、イギリスの名誉革命との関係が説明できる。	
		2週	ロック（2）	ロックの社会契約論と、ホッブズの社会契約論との比較ができる。	
		3週	ロック（3）	プラトンのイデア論と比較して、ロックの「タブラ・ラサ」の考え方を説明できる。	
		4週	ヒューム（1）	イギリス経験論について説明できる。	
		5週	ヒューム（2）	ヒュームの懐疑論について説明できる。	
		6週	ヒューム（3）	ヒュームの問題意識について説明できる。	
		7週	ヒューム（4）	ヒュームの社会契約論批判について説明できる。	

4thQ	8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	9週	試験返却・解答 啓蒙思想と百科全書派（1）	18世紀の啓蒙思想の基本的性格を説明できる。
	10週	啓蒙思想と百科全書派（2）	啓蒙思想と、欧米列強の帝国主義的世界進出との関わりについて説明できる。
	11週	啓蒙思想と百科全書派（3）	啓蒙思想の代表例として、フランスの百科全書派について説明できる。
	12週	ルソー（1）	百科全書派の主流とルソーの考え方の違いについて説明できる。
	13週	ルソー（2）	ルソーの人民主権と議会制度への疑念について説明できる。
	14週	ルソー（3）	ルソーの思想とフランス革命との関係について説明できる。
	15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0